

令和２年度第２回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会会議録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和２年度第２回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会
開 催 日 時	令和２年８月２７日（木） 午後２時３０分～午後３時３０分まで
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎３階 ３０１会議室
議 題	(1) 第７期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について (2) 第８期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の結果について (3) 第８期高松市高齢者保険福祉計画の骨子（案）について (4) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	山下会長、虫本職務代理、石川委員、上田委員、植中委員、梅村委員、喜田委員、近藤委員、鈴木委員、田中（邦）委員、萩池委員、古川委員、前田委員、松村委員、三瀬委員、元木委員
欠 席 委 員	喜多委員、小西委員、田中（克）委員、野上委員
傍 聴 者	４人、報道０社
担 当 課 及 連 絡 先	長寿福祉課 ０８７－８３９－２３４６ 介護保険課 ０８７－８３９－２３２６ 地域包括支援センター ０８７－８３９－２８１１

審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。
次のとおり、会議を開催した。

１ 開会

健康福祉局長挨拶

会議を公開とすることを確認

２ 議題

(1) 第７期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について（資料１、資料２）

資料１、資料２に基づき事務局から説明

(2) 第８期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の結果について（資料１、資料３）

資料１、資料３に基づき事務局から説明。

(3) 第８期高松市高齢者保健福祉計画の骨子（案）について（資料１）

資料１に基づき事務局から説明。

意見及び質疑応答

A 委員

〈議題(1)について〉

資料2 重点課題2の老人クラブについて、自分の親も参加しているが、住んでいる地区では老人クラブがなく、地区外の知り合いの老人クラブに参加している。コミュニティセンター等を通じて、全域に老人クラブが広がることを望んでいる。

事務局

〈議題(1)について〉

B 委員は何か意見があるか。

B 委員

〈議題(1)について〉

老人クラブに加入してもらいたい、「老人クラブって何をするとところなのか、入らない」というのがまず言われることである。全体で活動していくのは無理があるので、各地域単位で活動していければ、人も集まりやすくなり、楽しい活動になるのではないかと、検討しているところである。

A 委員

〈議題(1)について〉

資料2 重点課題3の避難行動要支援者名簿について、避難支援者の欄に民生委員や自治会長の名前を相談なしに記入していることがあるため、民生委員等が困っていると聞いた。助けてもらいたい人はたくさんいるが、助ける側の人にも限りがあるので相談なしに、記入されることに対して、対策を考えてほしい。

事務局

〈議題(2)について〉

避難行動要支援者名簿を管理する健康福祉総務課としては、支援者欄については、近隣にお住まいで、有事の際にすぐに自宅に駆けつけてくれる人の名前を書いてもらうようお願いしている。しかし、該当する人がいない場合は、民生委員をお願いしている場合がある。

C 委員

〈議題(3)について〉

資料3の問65「どのような生活支援があればいいと思いますか。」について、「自然災害時等の緊急時の避難行動支援」との回答が一番多い。地区でアンケートを行ったときにも1番問題点となったのが、災害時のことで、避難場所が分からないといった不安の声があった。

名簿について、75歳になると、支援を受けるかどうかの確認の書類

が届くと聞いたが、75歳以上の方以外の家族が住んでいる家庭にも、書類が届くのか。

事務局

〈議題(3)について〉

ひとり暮らしの人を対象としているので、家族と同居している場合は、対象外としている。

C委員

〈議題(3)について〉

名簿の対象について、区分が分かりづらいものとなっている。災害時の支援を行うために、名簿の整理が必要である。整理された名簿があれば、高松市で支援に向けた仕組み作りができるのではないかなと思う。

D委員

〈全体について〉

全体的に、対面できることが前提となっていると思う。今回コロナで、新しい生活様式という言葉があるが、「新しい」というところが引っかかっている。今の生活様式がずっと続く可能性があるので、「コロナ禍の生活」ではなく「新しい生活」という言葉を使っているのかなと思う。

施設でも、面会制限のために、家族との面会が2か月先になっている。もう少しICT機器を使うことも取り入れていく必要があると思う。

第1回の協議会でも話のあった、高齢者のスマホ普及率について調べると、高松市は14.8%、都会の方では40%近い普及率であり、地域格差が出ている。スマホが使用できることで、解決できる問題もあると思うので、団塊世代のスマホ使用への取り組みも考えていければいいと思う。

事務局

〈全体について〉

コロナの影響で、対面や集合して行う教室等が開催できない状況となっている。今後、第8期の計画の中では、そのような内容も盛り込んでいきたいと思っている。

また、高齢者のスマホ普及率が低い件については、令和元年度に実施した「高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査」の結果で、65歳以上の高齢者のスマホ普及率については、35.5%となっており、3年前に実施した調査結果の14.1%から、約20ポイント伸びている状況である。65歳以上をひとくくりにしているため、どの世代が多くスマホを持っているかつかめていないところではあるが、ICTの活用については、第8期計画に盛り込まなければいけないと思っている。

E委員

〈議題(3)について〉

資料1、P14計画骨子(案)の基本理念となっている、「住み慣れた地域で共に支え合い、高齢者が自分らしく安心して、暮らし続けられる社会の実現」について、「高齢者」が先頭にくるのではないかな。

事務局

〈議題(3)について〉

第7期計画策定時にも同様の話があり、「高齢者」を先頭にすることで、「共に支え合い」が高齢者だけで支え合うように受けとられるのではないかとの意見もあった。

F 委員

〈全体について〉

スマホの普及率については最近上がってきていると思うが、ランニングコストが高いので、コストを下げる必要がある。また、かがわWi-Fiがコミュニティセンター等で利用できるシステムづくりが必要であると思う。

G 委員

〈議題(3)について〉

資料1、P14施策(案)の災害時の援護体制の充実について、もし災害がきて、避難所や避難生活での排泄介助や移動支援が必要になったとき、次からは施設を利用することが検討されると思う。そうなる方が今後増えると考えられるが、ショートステイや施設の利用は限られている中で、避難所におけるガイドライン等を作成する予定はあるのか。

事務局

〈議題(3)について〉

福祉避難所と、小学校やコミュニティセンターで開設される一般の避難所のさび分けを行っていく。高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査でも、「災害時」という言葉が多く上がっているので、今後考えていく予定である。

H 委員

〈議題(2)について〉

資料3、P2問68の高松市地域包括支援センターの認知度について、26.8%となっているが、地域包括支援センターができてから、何年経つのか。また、高齢者に「高齢者保健福祉計画を知っているか」と聞いても、知っている人は限りなく0に近いのではないかと。

事務局

〈議題(2)について〉

包括支援センターは平成18年に立ち上がり、14年ほど経過したが、まだまだ認知度が低く、残念なところである。しかし、相談件数は2万件を超えてきており、今後も地域包括支援センターの周知啓発に努めていく。

I 委員

〈議題(3)について〉

資料1、P14施策(案)について、新型コロナの状況下で、居場所づくりや介護予防等、人と人が接する内容がたくさんあり、そのあたりをどのようにしていくのが難しいところだと思う。

歯科医院では飛沫感染リスクが高いが、この時期の夜間診療に、5人もの患者が来ていた。歯科医等と一般市民の人の意識の違いに気づき、その意識を補って対策を考えていく必要があると思った。

事務局

〈議題(3)について〉

高齢者の暮らしと介護についてのアンケートを実施したのは、コロナが流行する前の令和元年12月であったため、コロナの影響がどのように出ているのか把握できていないところもある。

居場所づくり事業等も活動中止依頼を行うこととなったが、みんなが集まって顔を見るということは、大切なことだと認識しているので、ICTの活用を通して、家にいても会えるようなことも計画に取り入れていきたいと思っている。

3 閉会